

2019年8月2日

投資者の皆様へ

T&Dアセットマネジメント株式会社

「資源ツインαファンド(通貨選択型)」の基準価額の下落について

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

足許の市場動向と「資源ツインαファンド(通貨選択型)」の基準価額への影響に関しまして、下記の通りご案内いたします。

今後ともお引き立てを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

◆ 「資源ツインαファンド(通貨選択型)」の基準価額

コース名	2019年 8月1日 基準価額(円)	2019年 8月2日 基準価額(円)	騰落幅 (円)	騰落率 (%)
ブラジルリアルコース	1,014	954	▲60	▲5.92

(騰落率は小数点第3位四捨五入)

◆ 市況情報

	2019年7月31日	2019年8月1日	騰落率 (%)
原油先物価格	58.58	53.95	▲7.90
金先物価格	1,437.80	1,432.40	▲0.38

(小数点第3位四捨五入)

海外の市場については基準価額への反映を考慮し、7月31日と8月1日を比較しています。

原油先物はWTI原油先物、金先物はCOMEX金先物の価格を使用しています。

原油先物価格の単位は米ドル/バレル、金先物価格の単位は米ドル/トロイオンスです。

	2019年7月31日	2019年8月1日	騰落率 (%)
ブラジルリアル(対米ドルレート)	0.2658	0.2613	▲1.69
米ドル(対円レート)	108.58	108.18	▲0.36

(ブラジルリアルは小数点第5位四捨五入、米ドルおよび騰落率は小数点第3位四捨五入)

為替レートは、WMロイター社が発表するロンドン時間午後4時のレートです。

ブラジルリアル(対米ドルレート)の単位は米ドル、米ドル(対円レート)の単位は円です。

各レートについては基準価額への反映を考慮し、7月31日と8月1日を比較しています。

出所:ブルームバーグ

◆足許の状況

昨日 8 月 1 日に米国のトランプ大統領が中国からの輸入品のうち現時点で制裁対象となっていない 3,000 億米ドル相当分に対しても来月 1 日より 10%相当の関税を賦課すると発表したことから、米中貿易摩擦の激化による世界経済の減速やエネルギー需要の鈍化などが懸念され、原油先物価格は大幅に下落しました。また、先月 30 日～31 日に開催された FOMC(米連邦公開市場委員会)終了後の会見において、パウエル議長の発言が市場参加者の間でタカ派寄りとみられたことから、金先物価格は日中を通して小幅に下落しました。一方、外国為替市場では投資家のリスク回避姿勢が高まり、ブラジルレアル(対米ドルレート)や米ドル(対円レート)などが弱含む展開となりました。

◆今後の見通し

世界的な景気減速に対する懸念が強まる中、米中貿易摩擦を巡る問題は依然として解決の糸口を見出し難く、引き続き世界貿易の停滞が原油需要を後退させることが危惧されています。しかしながら、産油国のうち OPEC(石油輸出国機構)加盟国やロシアなどでは 2020 年 3 月まで協調減産を延長することで合意しており、イランと米国の関係悪化懸念をはじめとした中東の産油国を巡る地政学リスクの高まりなどにより、原油需給の極端な緩和は予想し難く、原油先物価格は一定水準の範囲内で推移するものと推測されます。

米中貿易摩擦や世界経済の減速懸念、中東地域での地政学リスク、英国の EU(欧州連合)からの離脱問題などといった様々なリスク要因が市場にくすぶり続けている中、安全資産としての一定需要が金先物価格を下支えすると考えられます。一方、今後の米国の金融政策の方向性には、緩和と引き締め両方に可能性が残されていることから、金融政策の内容によって金先物価格は大きく変動する可能性があると考えられます。

ブラジルでは、国内景気が鈍化しインフレ圧力が弱まる中、ブラジル中央銀行が先月 31 日に政策金利の引き下げを決定しており、金融緩和による景気刺激効果が期待されます。また、財政赤字の主たる原因の一つと考えられる過剰な年金給付政策の見直しを目論んだ年金改革法案が下院議会で可決される可能性が高まっていることは、ブラジルレアルにとって好材料だと考えられます。加えて、世界的に金融政策が緩和方向にシフトしつつある中、相対的に高金利通貨であるブラジルレアルには一定の投資需要が集まると期待されます。米中貿易摩擦などの外部環境や年金改革法案の行方を巡り、ブラジルレアル(対米ドルレート)の変動は大きくなる可能性があるものの、一定水準は織り込み済みとみられます。

米ドル(対円レート)は、米中貿易摩擦の行方や米国の金融政策の動向に応じて変動する展開が続くと予想されます。そのような中、世界経済の成長減速に対する懸念が強まり、各地域で地政学リスクが高まる局面では、リスク回避通貨と位置付けられている円が一定の需要を集めて、円高圧力が強まると想定されます。また米国の金融政策に関しては、約 10 年半ぶりに利下げが実施されたものの、今後の政策の方向性には含みを持たせる内容であったことから、政策の先行きに注視が必要だと考えられます。

以上

当資料はT&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成したのですが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また投資信託の取得をご希望の場合は、下記のご留意事項を必ずご確認ください、ご自身でご判断ください。

投資信託のお申込みに際してのご留意事項

投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券、投資信託証券など値動きのある有価証券(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、運用実績は市場環境等により変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。これら運用による損益は全て投資者に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)をよくお読みいただき、ご自身でご判断ください。

投資信託に係る費用について

◇投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料・・・上限 4.32%(税込)

信託財産留保額・・・上限 解約金額・償還金額の1.00% または1口(設定時1口1万円)あたり160円

◇投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)・・・上限 年1.998%(税込)

その他費用・手数料・・・上記以外に保有期間に応じてご負担いただく費用があります。

投資信託証券を組み入れる場合には、間接的にご負担いただく費用として、当該投資信託の資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等が発生します。これらの間接的な費用のご負担額に関しましては、その時々各投資信託証券の組入比率や取引内容等により金額が変動しますので、事前に料率、上限額等を示すことができません。

*上記の費用の合計額については、投資者がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

*詳細につきましては必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」でご確認ください。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、T&Dアセットマネジメントが運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容をよくお読みください。